

# 機 構 改 革

～新年度より新しいシフトへ～

## 【より質の高いサービスを目指して】

令和3年4月1日コロナ禍の中、新年度が始まりました。前回機構改革を行ったのが平成28年4月でしたので、実に5年振りです。住民環境課が住民保険課に、健康づくり課が健康こども課に、そして産業振興課が産業環境課に再編に伴い改名いたしました。健康こども課は、子育ての充実をさらに進める課として登場いたしました。

そして、企画財政課を廃止しました。理由は、総務課内に政策室を設けて、町長と企画や財政の考えが直結できるようにシフトを変えたためです。就任から満6年、更なるスピード感と職員に対する考え方の浸透を図り、町を変えていきたいと思っております。

## 【就任早々】

私は、平成27年4月の統一地方選挙で町長になりました。就任早々に川俣駅橋上化の工事です。東武鉄道との建築協定が13億6300万円でしたが、工法及び規格の見直しを図り、最終的に2億円近く減額となり、自転車置き場とメイちゃん家ができました。



【平成27年6月から川俣駅橋上化工事が始まる】

## 【町制20周年と官民連携】

翌年の平成28年度は4月に機構改革を行い、廃止になっていた屋外放送の再構築をいたしました。屋外放送はNTTのオフトーク回線使用サービス終了が原因で平成27年2月に廃止になりました。このため、当時の区長さんの調査研究の成果により無線での屋外放送へ再構築となりました。減災事業債1億6500万円（地方交付税算入率＝元利均等返済の70％は地方交付税で戻ってくる）を発行し、防災行政無線システムを立ち上げました。

平成29年度は東部地域の地域ネットワークの形成を図るため、ふれあいセンタースズカケの建設を行いました。この際には、国県補助金を1億1432万円活用しました。

平成30年度は8月にキャンパック交差点改良事業が完成し、新たな十字路の交差点に変わり工業団地へのアクセスの利便性を向上させ、西部地域の地域

ネットワークの形成を図るためのふれあいセンターポプラの建設も行い、この際も国県補助金を1億530万円活用しました。

さらに、町制20周年ということで年間を通じさまざまな事業を展開させて戴きました。特に、夏の巡回ラジオ体操には1700人以上、10月の記念式典にはキャンパックホール満員の人々にお集まり戴き、誠にありがとうございました。

ソフト事業としては、新たな自治体連携先として静岡県掛川市との健康増進協定を結びました。

また、今後の明和町の開発に民間資金を取り入れるために、「まちづくり会社」を設立いたしました。



【ラジオ体操 1700人集まる】

## 【平成から令和へ】

平成31年度は町長2期目へ皆様の推挙により無投票ながら、さらに4年不祥なる私に町政を任せて戴ける事になりました。

町の中心部から賑わいと活気を創出し、移住定住の促進を図るため「まちづくり会社」を活用して事業を行う川俣駅周辺開発を始めました。

工業団地関係では、大輪東工業団地にトーモクが進出していただける事になり、入ヶ谷南工業団地は市街化区域に編入され造成工事が始まりました。

## 【更なる可能性】

令和2年度は7月から「まちづくり会社」による温泉掘削が始まりました。現在温泉掘削が終了し深さ1500メートルの温泉井戸が完成し、湯が湧き出るのを確認しました。



【温泉掘りの櫓】



【湯気を立てる温泉】

12月には、東北自動車道東側の東部工業団地45ヘクタールと国道122号バイパス西側の集客施設用地の市街化編入の認可が下りました。

令和3年度は8月に入ヶ谷南工業団地が完成し、10月には駅東側に保健センターと医療複合施設が完成予定です。そして駅西側には、町民の皆様方の憩いと健康の場、明和町を訪れた人々の安心の場として、温泉施設とビジネスホテル・商業施設の整備工事が始まってまいります。

物凄いスピードで明和町の開発を行っておりますが、時間は刻々と過ぎて行き、1日24時間、1年365日ではとても足りません。

## 【より住みやすく、快適に暮らせる町を目指して】

この度の組織の改編は、このスピードに合わせるための機構改革です。最近「明和町の開発はすごいね！目を見張る」と言われるようになりました。これを機に更に明和町を「より住みやすく、快適に暮らせる町」を目指して、スピード感を持って職員一同で頑張っております。

皆様 ご期待下さい！

令和3年4月1日

明和町長 富塚もとすけ